年間授業計画　新様式

高等学校　令和7年度　　芸術　　科目　書道Ⅰ

教　科：　芸術　　科　目：　書道Ⅰ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　1 学年　　組～　　組

教科担当者：（A組：嘉瀬和雄　（ B組：嘉瀬和雄　（ C組：嘉瀬和雄　（ D組：嘉瀬和雄　（ 組：　　）（ 組：　　）

使用教科書：（ 書Ⅰ（教育図書）　　）

教科　芸術　　の目標：

【知　識　及　び　技　能】

【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

科目　書道Ⅰ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の特質を理解し、用具・用材の特徴と用筆・運筆の関係性を実技を通して体得する。書の美の表現を目指し、自らの意思に基づいて構想を練り、それを実現するための技能を臨書活動を通して身につける。	作品や所の伝統とその文化的価値を考え、書の美を鑑賞するしなやかな能力を育てる。体得した知識・技能を生かし深い鑑賞力を身につけ、構想に対する表現の工夫や分析的な思考をより深くする。感じ方や考え方の多様性を自覚し、適切な用語で言語化できるようにする。	自身の活動を振り返り、見通しを立てながら、試行錯誤を繰り返し、粘り強く取り組む姿勢を身に着ける。書の美を感受しながら、生活や社会の中での書や文字の意味や価値を主体的に見出す姿勢を身につける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
			漢仮	漢	仮						
1学期	芸術書道を学習するために書道全般の基礎知識と基礎力の確認と理解を深める。古典を観察・臨書することで、芸術的視野をより広げる。	学習内容と用具用材の基礎知識。 書体の流れとその歴史背景との関連。 筆順の大原則・特例・由来及び筆順と文字造形の関連。 籠字による古典の臨書。		○	○	○	用具用材の的確な知識の習得と実践。 漢字の五書体と仮名の書体の変遷をつかむ。 筆順の正誤の確認と原則と例外の習得。 文字造形における筆順の意味を知る。	○	○	○	6
	書の専門的な事柄を理解させ、よりわかり易く指導し実践する。	用具・用材の特性を知る。 姿勢及び執筆・用筆・運筆法の理解と習得。 楷書の歴史。 楷書の基本用筆及び基本点画の習得。		○		○	正しい姿勢・執筆法・用筆法の理解と実践。 用具・用材の活用の理解と実践。 古典を通しての基本結構の習得。	○	○	○	8
	用筆・運筆と文字造形の関連性の理解。 楷書の文字造形の法則性の理解し実践する。 楷書の多様性を知る。	臨書 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 牛橛造像記		○		○	造形をよく観察し、用筆を工夫しているか か。 様々な古典の背景や特色を理解し、的確に表現しているか。 古典の内容に深く迫ろうとしているか。	○	○	○	12
2学期	線を連続して引く用筆法の理解と実践。充実した訓練による高い習熟度の達成。筆脈の貫通した造形の理解。 様々な行書の古典を鑑賞し、書風の相違に関心を持ち、それを意欲的に表現する。	行書の歴史。 行書の基本用筆と運筆法の理解及び基本点画の習得。 臨書 集王聖教序 蘭亭序		○		○	筆の回しこみ・返し、腕法手法の習得。 筆脈が貫通した造形の習得。 各古典の特色の理解し、鑑賞を通して表現に反映できたか。	○	○	○	14
	単体の基本形と仮名の運筆の習得。 穂先のあたり・回転の習得。 筆の流れによる文字と行の関連の理解と実践。連綿線の方向と長さ、文字の配置の工夫の重要性の理解と実践。	仮名の歴史。 仮名の用具・用材と執筆法及び基本用筆法の理解。 仮名の用筆法及び運筆法の理解と単体の習得。連綿の運筆法・造形法の理解と習得。 変体仮名を知る。			○	○	基本用筆とみ字造形の習得。 連綿の構成法の李k氏と運筆の実践。 各古典の特色の理解と鑑賞を通して、表現に反映できたか。	○	○	○	14
3学期	古典作品を広く見渡し、鑑賞して各自が興味を持った作品を選択する。 一つの作品と深く対峙することで、その作品の持つ内容をしっかりと感得しひょげんする。 条幅作品を書くことで、全体構成を理解、習得する。	選択課題 集王聖教序・蘭亭序・松風閣詩 巻・蜀素帖・争座位文稿・風信帖・伊都内親王願文・屏風土代・詩懐紙・白氏詩巻 高野切第一種・高野切第三種		○	○	○	造形の観察・用筆法の工夫をし、古典の特色を的確に表現できたか。 全体構成を考え、文字の大小、線の太細、墨の潤滑、筆脈の貫通をとりまとめることができたか。 他者の作品を鑑賞し、自分の意見を言葉にし、発言する。	○	○	○	10
	紙面統一の方向性を考える。 自由な発想と展開を引き出す。 芸術の意味を考える。	漢字仮名交じりによる創作。 色紙作品を書く。	○			○	用筆を統一し、変化ある構成を図る。 想像力を働かせ、しっかりと構想を練り、推敲を重ねて個性を発揮する。 制作した作品を見直し、自分の進歩と変化を省みる。	○	○	○	6
											合計 70